

令和3年度 行政評価調書

■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.148～150)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ6 生きがいにあふれ、人と文化を育むまち(生きがい・文化)		
施策名	6-1 社会教育		
所管部	教育部	関係部	生活環境部・福祉保険部
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p>(第7次総合計画 基本構想 P.45)</p> <p>市民一人ひとりが、豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じて多様に学び、その学習成果を社会へ生かすことができる生涯学習社会の実現を目指します。</p> <p>このため、多様なニーズに応じた学習機会の提供に努めるとともに、「学び」と「活動」の循環を形成する社会教育活動を促進します。</p> <p>また、学習や情報発信の拠点となる社会教育施設の整備や機能の充実に努めるとともに、様々な学習機会を提供することにより、市民の利用促進を図ります。</p>		
市民アンケート 指標	生涯学習に興味のある市民の割合	基準値	目標値
		48.0%	基準値より増

■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.148～150)

小施策 及び 指標	(1)「学び」と「活動」の循環の推進		基準値	目標値
	指標	地域のボランティアと連携して実施する教育支援活動推進事業の回数	2,245回	2,600回
	(2)生涯各期における学習機会の充実		基準値	目標値
	指標	「市民大学講座、はつらつ講座、やんぐすくーる、生活講座、老壮大学」の人口に対する参加者の割合	2.0%	2.2%
	(3)図書館の利活用の促進		基準値	目標値
	指標	市民一人当たりの貸出冊数	2.89冊	3.20冊
	(4)総合博物館の利活用の促進		基準値	目標値
	指標	入館者数(本館・運河館)	120,237人	140,000人
	(5)文学館・美術館の利活用の促進		基準値	目標値
	指標	入館者数(文学館)	9,138人	11,000人
	入館者数(美術館)	11,524人	13,000人	

令和3年度 行政評価調書

■施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ6 生きがいにあふれ、人と文化を育むまち(生きがい・文化)					
施策名	6-1 社会教育					
所管部	教育部	関係部	生活環境部・福祉保険部			
市民アンケート 指標	生涯学習に興味のある市民の割合	基準値	令和3年度	令和5年度	目標値	
		48.0%	47.5%		基準値より増	
市民アンケート 指標の推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない ー:判定不能(実績値なし)				
各小施策の 指標の推移	指標		基準値	実績値	推移	目標値
	(1)	地域のボランティアと連携して実施する教育支援活動推進事業の回数	2,245回	1,652回	△	2,600回
	(2)	「市民大学講座、はつらつ講座、やんぐすくーる、生活講座、老壮大学」の人口に対する参加者の割合	2.0%	0.5%	△	2.2%
	(3)	市民一人当たりの貸出冊数	2.89冊	2.21冊	△	3.20冊
	(4)	入館者数(本館・運河館)	120,237人	58,390人	△	140,000人
	(5)	入館者数(文学館)	9,138人	5,492人	△	11,000人
		入館者数(美術館)	11,524人	5,599人	△	13,000人
指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)						
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後の 方向性	C-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う			
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各社会教育施設等の休館や、様々な講座について中止又は活動や定員に制限を設けるなどの対策をとった。 市民や観光客も感染防止対策として外出を控えたことにより、例年に比べて講座の参加者や社会教育施設への入館者数が減少している。 今後も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策をとりながら、市民の生涯学習の場の創出に努める。 					

■施策の評価(二次評価)

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後の 方向性	D-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う		
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ○指標推移が全体的に後退している状況となったが、新型コロナウイルス感染症の影響による施設の閉鎖や利用制限、イベントの中止などによるものである。 ○現在、新型コロナウイルス感染症の収束時期は見通せないが、コロナ禍においても感染防止対策に一層努めながら、引き続き、市民に対する学習機会の提供・確保を進め、利用者ニーズに応えられるよう事業を工夫すること。 				

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(1)「学び」と「活動」の循環の推進

(第7次総合計画 基本計画 P.148)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	地域のボランティアと連携して実施する教育支援活動推進事業の回数		平成30年		2,245回	2,600回		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			2,131回	1,652回				
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)					
主な取組	<p>★社会教育団体などと連携した取組の推進(教育部生涯学習課) ○地域で活動する人材の育成(教育部生涯学習課)</p>							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 社会教育団体などとの連携		② 一 千円		③ 教育部生涯学習課		
		第7次総合計画1-2(4)の施策である学校と地域の連携を進めるに当たり、スポーツ団体や高校生奉仕活動部などの社会教育団体等と連携を図りながら、学校支援ボランティア事業、おたる地域子ども教室、家庭教育支援事業を実施するとともに、地域住民の持つ知識や経験を生かして様々な学習活動を支えることのできる人材育成を図り、地域の教育力向上を目指す。						
		⑤ 学校支援ボランティア対象校数と登録者数 平成30年度 27校187人 令和元年度 28校225人 令和2年度 24校315人						
	2	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	3	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	4	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	5	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	6	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	指標推移の要因等	・令和2年度の事業実施に当たり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、学校支援ボランティア事業などの実施について、活動の機会が減少したことにより、指標の低下につながっている。						
	指標推移への対応	1	1: 各事業をこのまま継続して推進する 2: 予算事業等を改善しながら推進する 3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う					
	対応の内容	< 対応の内容を簡条書きで記入 > ・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、学校とも連携し、地域で活動する人材の育成と、活動の場の創出に努める。						

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(2)生涯各期における学習機会の充実

(第7次総合計画 基本計画 P.149)

指標	指標名		指標の基準年			基準値	目標値	
	「市民大学講座、はつらつ講座、やんぐすくー、生活講座、老壮大学」の人口に対する参加者の割合		平成30年			2.0%	2.2%	
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	年度ごとの実績値					
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			1.9%	0.5%				
			指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)					
主な取組	<p>★市民の多様な学習ニーズに応じて開催している「市民大学講座」、「はつらつ講座」、「やんぐすくー」、「生活講座」などの学習講座の充実や「老壮大学」の活動支援(教育部生涯学習課、福祉保険部福祉総合相談室、生活環境部勤労青少年ホーム、生活環境部勤労女性センター)</p> <p>○家庭教育支援に関する講座等の充実(教育部生涯学習課)</p> <p>○生涯学習プラザや学校施設の活用促進(教育部生涯学習課)</p>							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 市民大学講座実行委員会補助金(01400)		② 0 千円		③ 教育部生涯学習課		
		④ 市民の学習活動の推進に大きな役割を担う企業などとの連携を図り、道内外から講師を招いて、市民の生涯学習の場とする。						
		⑤ 受講者数 平成30年度 411人 令和元年度 540人 令和2年度 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止						
	2	① はつらつ講座事業(01475)		② 1,585 千円		③ 教育部生涯学習課		
		④ 市民の学習要望を取り入れながら、生涯学習プラザにおいて「はつらつ講座」を開催し、学習機会の充実を図る。						
	⑤ 講座数と受講者数 平成30年度 375回815人 令和元年度 344回715人 令和2年度 284回318人							
	3	① やんぐすくー開催経費(00749)		② 42 千円		③ 生活環境部勤労青少年ホーム		
		④ 勤労青少年の文化・教養の向上、交流促進等を目的として、外部講師による料理・運動・ものづくりなどの講座を勤労青少年ホームを会場として開催する。						
		⑤ やんぐすくー開催回数と参加者数 平成30年度 11回92人 令和元年度 11回89人 令和2年度 7回27人						
	4	① 生活講座等開催経費(00758)		② 0 千円		③ 生活環境部勤労女性センター		
		④ 勤労女性等が、余暇を有効に活用し、日常生活に生かせる技術や知識を身につけたり、健康づくりをしながら人の輪をひろげ、豊かな生活を築くことを目的に講座を開催している。						
⑤ 開催状況 平成29年度 18講座延924人 平成30年度 14講座延770人 令和元年度 14講座648人 令和2年度新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止								
5	① 老壮大学の運営		② ー 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室			
	④ 概ね60歳以上の市民を対象に、生涯学習を通じて心身共に健康の増進を図る場として、昭和40年度から開設している。							
	⑤ 学生数 平成30年度 259人 令和元年度 218人 令和2年度 188人							
6	① 家庭教育支援に関する講座の充実		② ー 千円		③ 教育部生涯学習課			
	④ 第7次総合計画1-2(4)の施策である家庭・地域との連携を進めるにあたり、生涯学習プラザを主な会場として子育て世代の居場所づくりなどを行う「家庭教育支援事業」を実施し、地域全体の教育力向上を図る。							
	⑤ 受講者数 平成30年度 延べ1,750人 令和元年度 延べ1,967人 令和2年度 延べ490人 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少							
7	① 学校教室等文化開放事業費(01379)		② 28 千円		③ 教育部生涯学習課			
	④ 学校の教室などを文化活動団体に夜間開放し、生涯学習、文化芸術の振興を図る。							
	⑤ 利用者数 平成30年度 延べ5,115人 令和元年度 延べ4,558人 令和2年度 延べ6人 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少							
指標推移の要因等	・令和2年度の事業実施に当たり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため市民大学講座や生活講座等の中止、はつらつ講座ややんぐすくーについて活動や定員の制限により受講者が減少し、指標の低下につながっている。							
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
対応の内容	<対応の内容を簡条書きで記入> ・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、安全な講座の運営に努め、また魅力ある講座を開講し市民の生涯学習の場の創出に努める。							

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(3)図書館の利活用の促進

(第7次総合計画 基本計画 P.149)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
		市民一人当たりの貸出冊数		平成30年		2.89冊	3.20冊
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	年度ごとの実績値				
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			2.62冊	2.21冊			
			指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)				
主な取組	<p>★「学校ブックフェスティバル」の開催など、学校図書館などとの連携による子どもが自ら読書に親しめる環境の整備(教育部図書館)</p> <p>○郷土資料の収集・保存、レファレンス機能の充実(教育部図書館)</p> <p>○読み聞かせボランティアなどの市民ボランティア団体等との協働事業や大学等の他団体との様々な連携による事業の拡大(教育部図書館)</p>						
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 子ども読書活動推進事業費(3019)		② 1,759 千円		③ 図書館	
		④ 子どもの読書について専門知識を有し、且つ学校現場に詳しい職員を配置し、図書館がセンター的な立場となって家庭、地域、学校における子どもの読書活動を推進する。					
		学校ブックフェスティバル: 平成30年度 小学校2校 510名 令和元年度 小学校2校 323名 令和2年度 小学校2校 322名					
	⑤ 学校図書館運営相談: 平成30年度 小学校13校 中学校4校 高校1校 令和元年度 小学校18校 中学校7校 高校1校 令和2年度 小学校16校 中学校5校						
	2	① スクールライブラリー便事業費(2327)		② 600 千円		③ 図書館	
		「小樽市子どもの読書活動推進計画」に基づき、市内小中学校に図書館の資料を貸出し、学校図書館の読書環境の整備・充実を支援し、子どもの読書活動の推進を図るとともに、積極的に授業支援を行い、児童・生徒の学力向上を目指す。					
		⑤ 利用校数・貸出冊数: 平成30年度 28校 7,829冊 令和元年度 26校 8,184冊 令和2年度 26校 7,012冊					
3	① 図書資料等整備事業費(1414)		② 10,700 千円		③ 図書館		
	④ 図書資料(一般図書、児童書、新聞、雑誌、官報等)を収集、整理し、利用に供することで、利用者の調査研究、教養、レクリエーション等、多様化するニーズに応え、地域の情報拠点となる図書館として読書環境の充実と蔵書の整備を図る。						
	⑤ 蔵書状況: 平成30年度 316,573冊 令和元年度 319,041冊 令和2年度 320,965冊 貸出者数・貸出冊数: 平成30年度 102,825人 334,776冊 令和元年度 79,486人 297,716冊 令和2年度 65,869人 247,356冊						
4	① ボランティアとの連携による事業		② 予算なし 千円		③ 図書館		
	④ 読み聞かせボランティアとの連携により、子どもの読書活動を推進する。						
	⑤ 平成30年度 12回 92人 令和元年度 11回 87人 令和2年度 2回 16人						
5	① 図書貸出窓口拡充事業費(4118)		② - 千円		③ 図書館		
	④ 図書館及び図書館バスでのみ実施していた、図書の貸し出しを市内のサービスセンター(駅前・塩谷・銭函)でも実施するため、貸出バッグを作成する。						
	⑤ 令和2年第5定例会で350千円の予算措置。令和3年度に繰り越し。						
指標推移の要因等	・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は閉館期間があったほか、イベントの中止などにより利用者及び貸出冊数が大きく減少した。						
指標推移への対応	1	1: 各事業をこのまま継続して推進する 2: 予算事業等を改善しながら推進する 3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う					
対応の内容	< 対応の内容を箇条書きで記入 > ・学校授業支援を開始し、子どもの読書活動推進に努めている。 ・令和3年7月より予約図書を駅前・銭函・塩谷の3サービスセンターで受け取れる新事業を開始し、利用者サービス拡充に努めている。						

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(4)総合博物館の利活用の促進

(第7次総合計画 基本計画 P.149)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	入館者数(本館・運河館)		平成30年		120,237人	140,000人		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			127,638人	58,390人				
指標推移	△	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≧標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	<p>★地域の自然、歴史、文化に関する調査・研究や資料収集(教育部総合博物館)</p> <p>★資料展示や企画展、科学体験などを重視した普及講座の充実(教育部総合博物館)</p> <p>○動態展示している鉄道施設の活用、鉄道車両の保存・修復(教育部総合博物館)</p> <p>★学校教育と連携した学習支援の充実(教育部総合博物館)</p>							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 総合博物館調査研究等事業費(3684)		② 1,161 千円		③ 総合博物館		
		④ 小樽及び周辺地域の歴史資料の調査・自然環境に関する調査による歴史資料、自然標本の収集、採集、北海道に関わる鉄道資料を収集し、各種展示や講座等(学習支援も含む)で還元している。						
		⑤ 令和2年度実績: 稲垣日誌・コロナ禍関係資料の調査研究等を実施 資料収集 3,117点 各種普及講座の実施 36件 学校教育と連携した学習支援 46件						
	2	① 日本遺産炭鉄港展示施設整備事業費(3919)		② 18,975 千円		③ 総合博物館		
		④ 日本遺産炭鉄港のガイダンス展示を視覚的にわかりやすくするために必要な改修を行った。近代以降の小樽の歴史や、北海道の交通や産業の歴史を学ぶ展示になっている。						
		⑤ 令和2年度に改修完了。令和3年4月から展示再開。						
	3	① プラネタリウム設備等整備事業費(3920)		② 13,059 千円		③ 総合博物館		
		④ コロナ下で安全に投影するために、換気工事等を行い、投影機のリニューアルも行った。						
		⑤ 令和2年度に整備完了。令和3年4月から投影再開。						
	4	① アイアンホース号管理経費(3656)		② 3,528 千円		③ 総合博物館		
		④ アイアンホース号の運行、維持管理						
⑤ SLボイラーの整備や性能検査等を実施								
5	① アイアンホース号維持補修費(3671)		② 1,771 千円		③ 総合博物館			
	④ アイアンホース号運行の安全管理を継続することを目的とした修繕							
	⑤ 令和2年度はアイアンホース号の発車準備用空気圧縮機や転車台の修繕を行った。							
6	① 収蔵車両等補修事業費(1430)		② 2,700 千円		③ 総合博物館			
	④ 腐食がすすみ、破損、塗装の剥離が進行している屋外展示車両の補修を行う。							
	⑤ 専門業者が行うさび落としや塗装による補修やボランティア、職員による塗装を行っている。							
指標推移の要因等	・新型コロナウイルス感染症の影響により、入館・閲覧の制限等(臨時休館も含む)のため入館者数が減少している。							
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
対応の内容	<対応の内容を箇条書きで記入> ・「主な取組」の事業を継続して推進し、特に「アイアンホース号の客車改修」や「ひまわり8号衛星データ閲覧展示の設置」など展示物の魅力を向上させることによりコロナ収束後の入館者増加を目指す。 ・サーモカメラの導入やプラネタリウム室の換気システム工事等を行い、コロナ禍においても安心安全に開館できる感染対策を行った。							

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(5)文学館・美術館の利活用の促進

(第7次総合計画 基本計画 P.150)

指標1	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	入館者数(文学館)		平成30年		9,138人	11,000人	
年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		8,322人	5,492人				
指標1推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
指標2	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	入館者数(美術館)		平成30年		11,524人	13,000人	
年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		10,911人	5,599人				
指標2推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
主な取組	<p>★特別展や企画展、講座の充実(教育部文学館・美術館)</p> <p>○小樽にゆかりのある作家や作品の調査・研究、資料収集及び保存(教育部文学館・美術館)</p>						
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 特別展開催経費(1442)		② 149千円		③ 文学館	
		④ 小樽出身の作家で過去に山本周五郎賞受賞のほか直木賞候補などの経歴をもつ朝倉かすみ氏を取り上げた「朝倉かすみ展」を開催する。関連事業では朝倉かすみ氏を招聘し特別講演会を行う。					
		⑤ 入館者数 平成30年度 1,235人、令和元年度 1,181人、令和2年度 605人					
	2	① 特別展開催経費(1452、1453、1854、1865)		② 2,836千円		③ 美術館	
		④ 小樽や北海道にゆかりのあるアーティストや作品などを取り上げ、美術の振興や文化の発展を図る。小樽ゆかりの版画家や札幌の蒐集家の作品による展示のほか、舞踏家と現代美術家によるコラボレーションなど行う。					
		⑤ 観覧者数 平成30年度 3,483人、令和元年度 6,781人、令和2年度 4,094人					
	3	① 企画展等開催事業費(1454)		② 5千円		③ 美術館	
④ 小樽芸術村と連携した「斎藤清と小樽」展ほか、近年ではPS展文部科学大臣賞受賞など多数の受賞経歴をもつ写真家による「北に生きる猫 土肥美帆作品展」を開催する。							
⑤ 観覧者数 平成30年度 2,558人、令和元年度 903人、令和2年度 709人							
4	① 調査研究費(1443)		② 125千円		③ 文学館		
	④ 小樽ゆかりの作家等の作品や資料の収集・整理・調査研究を行い、情報の蓄積と展示内容を充実させる。文学館報の発行・配布を行う。道外にて企画展事前調査を行う。						
	⑤ 館報の発行 平成30年度 第42号600部、令和元年度 第43号600部、令和2年度 第44号600部						
5	① 調査研究費(1455)		② 197千円		③ 美術館		
	④ 小樽ゆかりの作家等の作品や資料の収集・整理・調査研究を行い、情報の蓄積と展示内容を充実させる。美術館報を年2回発行・配布を行う。道外にて特別展等事前調査を行う。						
	⑤ 館報の発行 平成30年度 第23・24号各500部、令和元年度 第25・26号各500部、令和2年度 第27・28号各500部						
指標推移の要因等	・新型コロナウイルス感染症の影響により、入館制限等(臨時休館も含む)のため入館者数が減少している。特に文学館・美術館は立地上、観光地周辺にあり道外や国外からの観光客の利用が多いことも影響している。						
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う					
対応の内容	<p><対応の内容を箇条書きで記入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内の感染防止対策をとりながら、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着くことにより、従前の利用数を見込める。 ・資料収集等については、展示内容の充実を図るため、継続する必要がある。 ・特別展については、施設を利用する契機にもなるため、質を落とすことなく目玉展示を開催する。 ・企画展については、タイムリーな話題など取り上げ、地元住民の利用を促進する。 						